

第 II 部 練習問題の解答

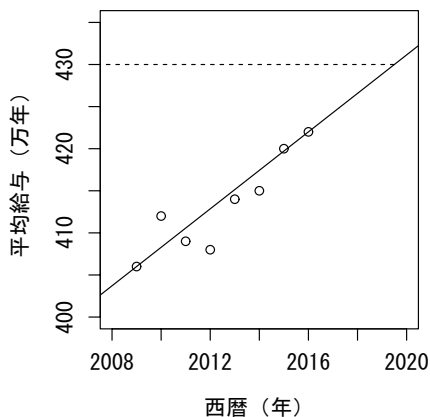
▶ 第 7 章

- 7.1 西暦を x (年), 平均給与を y (万円) とし, 求める直線を $y = a + bx$ とする. 2009 年の平均給与は 406 万円, 2016 年の平均給与が 422 万円なので,

$$406 = a + 2009b$$

$$422 = a + 2016b$$

を満たす a, b を求める. この連立方程式を解くことで, $a = -29302/7, b = 16/7$ が得られる (以下の図はこのデータの散布図と求めた直線である).



また, この直線から平均給与が 430 万円となる年を計算すると,

$$430 = -\frac{29302}{7} + \frac{16}{7}x$$

より, $x = 2019.5$ (年) となる.

- 7.2 2004 年のトラヒックを 1 としたときの各年のトラヒックは

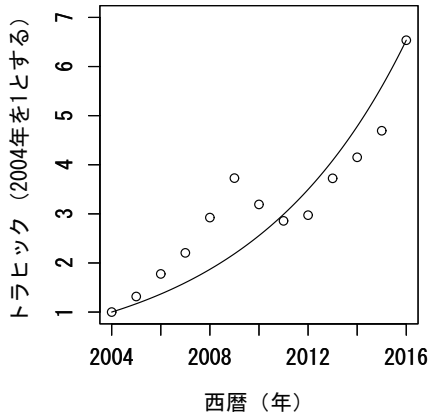
年	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
トラヒック	1.00	1.32	1.78	2.21	2.92	3.73	3.19

年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
トラヒック	2.86	2.97	3.72	4.15	4.69	6.54

である（小数点以下第3位を四捨五入している）．2004年のトラヒックを1としたときの2016年のトラヒックの値は6.54なので、

$$6.54 = a^{12}$$

より、 $a = 1.17$ である．この散布図と求めた曲線は次のとおりである．



- 7.3** ポアソン分布の確率 $e^{-\lambda}\lambda^x/x!$ は正である．また、 $\lambda = 1$ とすると、 $x > 2$ のとき $e^{-1}/x! < e^{-1}/x$ であるので、

$$0 < \frac{e^{-1}}{x!} < \frac{1}{ex} \rightarrow 0 \quad (x \rightarrow \infty)$$

である．よって、はさみうちの原理より、 $e^{-1}/x!$ は0に収束する．

➤ 第8章

- 8.1** $f(x) = x^2 - 2x + 5 + 8/x$ として、この関数を微分すると $f'(x) = 2x - 2 - 8/x^2$ である．また、

$$f'(x) = \frac{2(x^3 - x^2 - 4)}{x^2} = \frac{2(x-2)(x^2 + x + 2)}{x^2}$$

より, 増減表は

x	0	⋯	2	⋯
$f'(x)$		-	0	+
$f(x)$	$+\infty$	\searrow	9	\nearrow

となるので, 1 個あたりの作成費用が最小となるのは $x = 2$ のときである.

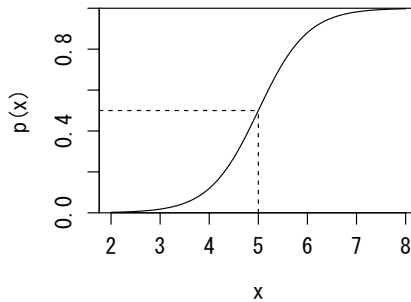
- 8.2** $p(x) = (1 + \exp(10 - 2x))^{-1}$ を微分すると, $p'(x) = 2(1 + \exp(10 - 2x))^{-2} \exp(10 - 2x)$ である. 任意の x に対し $p'(x) > 0$ より, $p(x)$ は単調増加関数である. また,

$$\begin{aligned} p''(x) &= \frac{8(\exp(10 - 2x))^2}{(1 + \exp(10 - 2x))^3} - \frac{4\exp(10 - 2x)}{(1 + \exp(10 - 2x))^2} \\ &= \frac{4(\exp(10 - 2x) - 1)\exp(10 - 2x)}{(1 + \exp(10 - 2x))^3} \end{aligned}$$

より, $x = 5$ のとき $p''(x) = 0$, $x < 5$ のとき $p''(x) > 0$, $x > 5$ のとき $p''(x) < 0$ である. 以上より, 増減表は

x	$-\infty$	⋯	5	⋯	∞
$p'(x)$		+	+	+	
$p''(x)$		+	0	-	
$p(x)$	0	\nearrow	1/2	\searrow	1

であるので, このグラフは



となる.

- 8.3** 100 人中 15 人が支持するという現象が最も起こりやすい p とは,

$$100 C_{15} p^{15} (1 - p)^{85}$$

が最大となる p である. ここで, この対数

$$\log_{100} C_{15} + 15 \log p + 85 \log(1 - p)$$

について p で微分したものが 0 となる p を求める. すると,

$$\begin{aligned} \frac{d}{dp}(\log {}_{100}C_{15} + 15 \log p + 85 \log(1-p)) &= \frac{15}{p} - \frac{85}{1-p} = 0 \\ 15(1-p) - 85p &= 0 \\ p &= \frac{15}{100} = 0.15 \end{aligned}$$

である. $0 < p < 1$ のときは ${}_{100}C_{15}p^{15}(1-p)^{85} > 0$ であり, かつ $p=0, p=1$ のとき ${}_{100}C_{15}p^{15}(1-p)^{85} = 0$ なので, $p=0.15$ のときにこの確率が最大となる.

➤ 第9章

9.1

$$\begin{aligned} \int_0^2 (278 - 139t) dt &= \left[278t - \frac{139}{2}t^2 \right]_0^2 \\ &= 278 \end{aligned}$$

9.2

$$\int_0^{10} \{200 - 2(t-4)^2\} (1 - \sin(\pi t/12 - \pi/3)) dt$$

について, $x = t - 4$ と変数変換する. すると,

$$\begin{aligned} \int_{-4}^6 (200 - 2x^2)(1 - \sin(\pi x/12)) dx &= \int_{-4}^6 (200 - 2x^2) dx \\ &\quad - 200 \int_{-4}^6 \sin(\pi x/12) dx \\ &\quad + 2 \int_{-4}^6 x^2 \sin(\pi x/12) dx \\ &= \left[200x - \frac{2}{3}x^3 \right]_{-4}^6 \\ &\quad + \frac{2400}{\pi} [\cos(\pi x/12)]_{-4}^6 \\ &\quad - \frac{24}{\pi} \int_{-4}^6 x^2 (\cos(\pi x/12))' dx \\ &= \frac{5440}{3} - \frac{1200}{\pi} \\ &\quad - \frac{24}{\pi} [x^2 \cos(\pi x/12)]_{-4}^6 + \frac{48}{\pi} \int_{-4}^6 x \cos(\pi x/12) dx \\ &= \frac{5440}{3} - \frac{1008}{\pi} \\ &\quad + \frac{576}{\pi^2} \int_{-4}^6 x (\sin(\pi x/12))' dx \\ &= \frac{5440}{3} - \frac{1008}{\pi} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
& + \frac{576}{\pi^2} [x \sin(\pi x/12)]_{-4}^6 - \frac{576}{\pi^2} \int_{-4}^6 \sin(\pi x/12) dx \\
& = \frac{5440}{3} - \frac{1008}{\pi} + \frac{3456 - 1152\sqrt{3}}{\pi^2} + \frac{6912}{\pi^3} [\cos(\pi x/12)]_{-4}^6 \\
& = \frac{5440}{3} - \frac{1008}{\pi} + \frac{3456 - 1152\sqrt{3}}{\pi^2} - \frac{3456}{\pi^3} \\
& \doteq 1529.013
\end{aligned}$$

となる.

9.3

$$\int_{-\infty}^{\infty} \frac{x}{\sqrt{2\pi}} e^{-x^2/2} dx = \left[-\frac{1}{\sqrt{2\pi}} e^{-x^2/2} \right]_{-\infty}^{\infty} = 0$$

▶ 第 10 章

10.1 $f(x, y) = 10000x(y - x)/(0.01y + 1)^4$ とすると,

$$\begin{aligned}
f_x(x, y) &= 10000(y - 2x)/(0.01y + 1)^4 \\
f_y(x, y) &= 10000x/(0.01y + 1)^4 - 400x(y - x)/(0.01y + 1)^5 \\
&= 100(100 - 3y + 4x)x/(0.01y + 1)^5
\end{aligned}$$

なので, $x > 0, y > 0$ の範囲で $f_x(x, y) = f_y(x, y) = 0$ となる点は $x = 50, y = 100$ である. また,

$$\begin{aligned}
f_{xx}(x, y) &= -20000/(0.01y + 1)^4 \\
f_{xy}(x, y) &= 10000/(0.01y + 1)^4 - 400(y - 2x)/(0.01y + 1)^5 \\
&= 100(100 - 3y + 8x)/(0.01y + 1)^5 \\
f_{yy}(x, y) &= -300x/(0.01y + 1)^5 - 5(100 - 3y + 4x)x/(0.01y + 1)^6 \\
&= (-800 + 12y - 20x)x/(0.01y + 1)^6
\end{aligned}$$

である. よって, $f_{xx}(50, 100) = -1250, f_{xy}(50, 100) = 625, f_{yy}(50, 100) = -468.75$ である.

以上より, ヘシアンは $|H| = 1250 \times 468.75 - 625^2 = 195312.5 > 0$ となり, $f_{xx}(50, 100) < 0$ より, $x = 50, y = 100$ で利益は最大となり, そのときの利益は $f(50, 100) = 1562500$ となる.

10.2 $f(x, y) = x^2 + 2xy + 3y^2$ について, $f_x(x, y) = 2x + 2y, f_y(x, y) = 2x + 6y$ なので, $f_x(1, 0) = 2, f_y(1, 0) = 2$ である. よって, $(x, y) = (1, 0)$ での $(\alpha, \beta) = (\cos \theta, \sin \theta)$ 方向の微分は

$$2 \cos \theta + 2 \sin \theta = 2\sqrt{2} \sin(\theta + \pi/4)$$

である. 以上より, $\theta = 5\pi/4$ のとき, つまり, $(\cos \theta, \sin \theta) = (-1/\sqrt{2}, -1/\sqrt{2})$ 方向の方向微分が最小となる.

10.3 $f(a, b) = (3 - a - b)^2 + (4 - a - 2b)^2 + (5 - a - 7b)^2$ であるので, $f_a(a, b) = -2(3 - a - b) - 2(4 - a - 2b) - 2(5 - a - 7b) = -24 + 6a + 20b$, $f_b(a, b) = -2(3 - a - b) - 4(4 - a - 2b) - 14(5 - a - 7b) = -92 + 20a + 108b$ である. ここで, $f_a(a, b) = f_b(a, b) = 0$ とすると, $a = 94/31, b = 9/31$ が得られる.

また, $f_{aa}(a, b) = 6, f_{ab}(a, b) = 20, f_{bb}(a, b) = 108$ より, ヘシアンは $|H| = 6 \times 108 - 20^2 = 248 > 0$ となり, $f_{aa}(a, b) > 0$ より, $(a, b) = (94/31, 9/31)$ で最小となる.

▶ 第 11 章

11.1
$$\begin{aligned} \int \int_{[0,100] \times [0,100]} f(x, y) dx dy &= 40 \int_0^{100} (-0.01x^2 + 0.4x + 30) dx \int_0^{100} (-0.01y + 1) dy \\ &= 40 \times \left[-\frac{1}{300}x^3 + \frac{1}{5}x^2 + 30x \right]_0^{100} \times \left[-\frac{1}{200}y^2 + y \right]_0^{100} \\ &= 40 \times \frac{5000}{3} \times 50 \\ &= \frac{10000000}{3} \end{aligned}$$

11.2 $x = r \cos \theta, y = r \sin \theta$ と変数変換を行うとヤコビ行列式は

$$\begin{aligned} \left| \frac{\partial(x, y)}{\partial(r, \theta)} \right| &= \begin{vmatrix} \frac{\partial x}{\partial r} & \frac{\partial x}{\partial \theta} \\ \frac{\partial y}{\partial r} & \frac{\partial y}{\partial \theta} \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} \cos \theta & -r \sin \theta \\ \sin \theta & r \cos \theta \end{vmatrix} \\ &= r(\cos^2 \theta + \sin^2 \theta) = r \end{aligned}$$

となる. また, 積分領域は $R' = \{(r, \theta) | 0 < r \leq 1, 0 \leq \theta < 2\pi\}$ となる. 変数変換を行うことで,

$$\begin{aligned} \int \int_R \frac{1}{2\pi} \exp(-(x^2 + y^2)/2) dx dy &= \int \int_{R'} \frac{r}{2\pi} \exp(-r^2/2) dr d\theta \\ &= \frac{1}{2\pi} \int_0^1 r \exp(-r^2/2) dr \int_0^{2\pi} 1 d\theta \\ &= [-\exp(-r^2/2)]_0^1 \\ &= 1 - e^{-1/2} \end{aligned}$$

と計算される.